事例No.	2796
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	特定非営利活動法人ほほえみの郷トイトイ

事例区分	地域活性化

タグ	・地域運営組織 ・福祉・介護 ・関係人口

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

地域ニーズに基づいたソーシャルビジネス確立による持続可能な地域運営

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

優秀賞



地域ニーズに基づいたソーシャルビジネス確立による持続可能な地域運営

特定非営利活動法人ほほえみの郷（さと）トイトイ

DATA

事　例　名：特定非営利活動法人ほほえみの郷トイトイ
所　在　地：山口県山口市阿東地福上1886-1
連　絡　先：TEL 083-952-1800
　　FAX 083-952-1800
　　E-mail hohoeminosato@gmail.com
ホームページ：https://jifuku-toitoi.com

取り組みの概要

地区内唯一のスーパーが撤退後、地域の活力低下や住民同士の関係悪化等への不安を、将来構想の共有により解消。その後、ミニスーパー併設の地域拠点を開設して以降、「地域の絆でつくる笑顔あふれる安心の故郷づくり」をキャッチフレーズに、地域の声を丁寧に集めながら、自ら出向く移動販売事業等の「共感」と「思いやり」を基本にした各種の事業を順次開始。現在は、人口減少下での地域コミュニティの再構築に向けた取り組みも展開中。

評価された点

●交流の場の確保によって地域の結束力の向上に寄与しており、さらに移動販売などにもチャレンジしている点を評価。
●スーパーの撤退という地域衰退の悪循環が始まりかねない出来事に対し、将来構想の共有や新拠点でのつながりの復活といった「安心」を大切にしている点を評価。
●住民が主体となって将来ビジョンを描きながら地域の課題解決に取り組んでおり、自主性、協働性を高く評価。地域に集いの場を作るだけでなく、ミニスーパーを併設して集まる理由を創出している点など、住民のニーズをうまく捉えている。
●地域の方々が力を合わせて、課題を一つずつ解決しながら、高齢者や地元の人の生活をしっかりと支援している点を評価。
●移動販売から、総菜加工、工房、介護予防等、拠点づくりと並行して事業が進んでいる。過疎地域におけるコミュニティ維持にとって、一つの方向性を示した取り組みである。また、連続的に新しいことにチャレンジしている力も評価。
●住民の協力により、移動販売をはじめとする事業展開を図るとともに、多世代交流など活性化に向けた多様な交流の機会を創出している点を評価。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ　2010年～
・地区内唯一のスーパーが撤退し、地福地域づくり協議会を中心に課題解決に取り組む。

・地域コミュニティの低下。
・住民の不安増大。

2011年～
地福ほほえみの郷運営協議会を発足
・地福ほほえみの郷構想（地域の将来構想）を策定。
・地域拠点を中心とした新たな地域の仕組みづくりに着手。

2012年～
地域拠点ほほえみの郷トイトイを開設
・地区住民全戸が寄付。　・ミニスーパーと交流スペース。　・野菜出荷のしくみ。

・拠点等に集まる地域の声への対応。

2013年～
・移動販売事業。
・総菜加工
トイトイ工房。



・NPO法人化、
トイトイ工房統合。



2014年～

・移動販売等で集まる地域声への対応。

2015年～
・カフェスペース。

・介護予防事業
「元気いきいき広場」。



・トヨタ財団。

2016年～

・子育て世代の地域外転居。
・高齢者等の移動に対する不安等の顕在化。

2017年～
・認知症カフェ。
・空き家活用PJ（～2018年）。

・地域食堂。

2018年～

・トヨタモビリティ基金。

2019年～
・地域に合った移動のしくみ検討。
・移動販売車の増台。

・企業との連携による地域課題解決。

・コロナ禍でコミュニティが希薄化。
・高齢者等はフレイルの懸念。

2021年～

・過疎地域持続的発展支援交付金
・JANPIA

2022年～
・キッチンカー巡回サロン。
・地域の持続性（コミュニティの再デザイン）検討着手。



今後の展望
・若者の地域外流出抑制に向けた仕事の創出（ソーシャルビジネスの定着）。
・子育て世代等の移住定住促進に向けたワンストップ相談窓口の開設（物件に加え、仕事・子育て情報等）。
・企業と連携した地域内の「ヒト」「モノ」の移動の最適化の実現。

受賞者のコメント

「地域の絆でつくる笑顔あふれる安心の故郷づくり」をキャッチフレーズに地域のみなさんと共に取り組んできたことが、評価され大変ありがたく感じています。
これまで地域課題をきっかけに地域の将来ビジョンを描き少しずつ歩みを進めてきました、今後さらに人口減少が進む中、未来へのモチベーションを持ちコミュニティを核とした新たなチャレンジを進めていきたいと考えています。今回の受賞が地域の自信となりさらなる活力になることを期待しています。